

2009年度

科目名	文化財学特殊研究(文化財形態論)			
担当教員	阪田 宗彦			
配当	文修1		コード	24690
開期	通年	講時	火曜日4限	単位数 4
授業テーマ	上代工芸論(正倉院宝物)			
目的と概要	上代工芸は国際性豊かな盛唐文化を垣間見させるもので、その中核を占める正倉院宝物に勝るものはない。本講では個々の宝物に視線をあて、素材・意匠・技法・装飾文様について詳述し、宝物そのものの理解を図るとともに、8世紀の唐文化の受容の一端を探る。 スライド、DVD、VHSを使用する。			
成績評価法	受講態度および研究成果によって評価する。			
テキスト	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。			
参考書	使用しない。			
履修に 当たっての 注意・助言				
講義計画				
1. 序章 2-5. 北倉納物 素材・形状・制作技術・意匠・文様等を詳述。 6-9. 中倉納物 素材・形状・制作技術・意匠・文様等を詳述。 10-14. 南倉納物 素材・形状・制作技術・意匠・文様等を詳述。 15. 発表と試問 16-19. 帳内御物と献物帳 20. 宝物にみるインド的要素 21-23. 宝物の持つ国際性 24-26. 宝物にみる新羅的要素 27-29. 21世紀における正倉院宝物の伝存の意義は？ 30. 発表と試問				